

凡例

要地方言の活用体系を共通の枠組みによって記述する。記述の枠組みの詳細は、既刊の『全国方言文法辞典資料集 (3) 活用体系 (2)』(方言文法研究会 2017)、『全国方言文法辞典資料集 (4) 活用体系 (3)』(方言文法研究会 2018)、『全国方言文法辞典資料集 (5) 活用体系 (4)』(方言文法研究会 2019)に掲載した「この報告書における記述の枠組み」を参照してほしい(方言文法研究会のウェブサイト <http://hougen.sakura.ne.jp/> 参照)。本編の各項目の記述は、以下の構成をとる。

地域概説

都道府県(あるいは、その一部の地域)を単位とする方言区画図をあげ、【○○都/府/県の方言区画】と【○○方言について】において記述対象方言の方言区画上の位置づけを示す。当該方言の音声的な特徴にもとづき特殊な表記を行う場合には、【表記について】に記載する。当該方言の記述のデータソース(話者情報、用例の出典等)については、【調査概要】に記載する。

活用表

《動詞》の活用表では、活用型の種類が共通語と同じ方言では、多段型動詞(学校文法の「五段動詞」として「書く」、一段型動詞(同「一段動詞」として「見る」、不規則活用動詞の「来る」と「する」を代表語とする。共通に取り上げる活用形は、以下のものである。

終止類 … 断定非過去形、断定過去形、命令形、禁止形、意志形、推量形
 接続類 … 連体非過去形、連体過去形、中止形、仮定形
 派生類 … 否定形、丁寧形、使役形、受身形、可能形、尊敬形、継続形、希望形、のだ形

《動詞》活用形の表のあとに、「多段型動詞の基幹音便形」の表を付す。これはいわゆる五段動詞の音便形(タ・テに接続する形)の作り方を示した表である。

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》の活用表は、原則として、形容詞「赤い」、形容名詞述語(いわゆる形容動詞)「静か(だ)」、名詞述語「学生(だ)」を代表語とし、それぞれの活用形をあげる。共通に取り上げる活用形は、以下のものである。

終止類 … 断定非過去形、断定過去形、推量形
 接続類 … 連体非過去形、連体過去形、中止形、仮定形
 派生類 … 否定形、なる形、副詞形※、丁寧形、のだ形

※2021年3月以降に依頼した原稿から追加。

代表語は、当該方言の活用体系や依拠する資料により、追加・変更する。

また、当該方言において他に特徴的な活用形がある場合は、該当する類の欄に追加する。上記の共通項目において、当該方言に対応する形式がない場合は、表中に「(該当形 欠)」と記入する。稀な形式には△を付す。異なる語による補充形がある場合は《 》内に記載する。

解説

原則として、以下の構成で記述する。

1. 動詞の活用の特徴
 - (1) 活用型と語類の対応
 - (2) 各活用形の特徴
2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴
 - 【形容詞】
 - 【形容名詞述語・名詞述語】

動詞の「(1) 活用型と語類の対応」における活用型の基本的な名称は次のとおり。詳細は「この報告書における記述の枠組み」4.1.2 参照。

基幹多段型（略称：多段型）… 学校文法の四・五段活用にあたる。必要に応じて「多段一般型」と「多段特殊型」に分ける。

基幹一段型（略称：一段型）… 学校文法の上一段・下一段活用にあたる。

基幹二段型（略称：二段型）… 学校文法の上二段・下二段活用にあたる。上の「一段型」と区別が必要な場合に用いる。

また、各活用型の所属語彙を次の分類で示す。

a 類

「書く」類 … 「出す」「立つ」「飲む」「飛ぶ」など。古典語の四段活用動詞。

「居る」類 … 「ある」など。古典語のラ行変格活用動詞。

「死ぬ」類 … 「去ぬ」。古典語のナ行変格活用動詞。

b 類

「見る」類 … 「着る」など。古典語の上一段活用動詞。

「起きる」類 … 「飽きる」など。古典語の上二段活用動詞。

「開ける」類 … 「寝る」「受ける」など。古典語の下二段活用動詞。

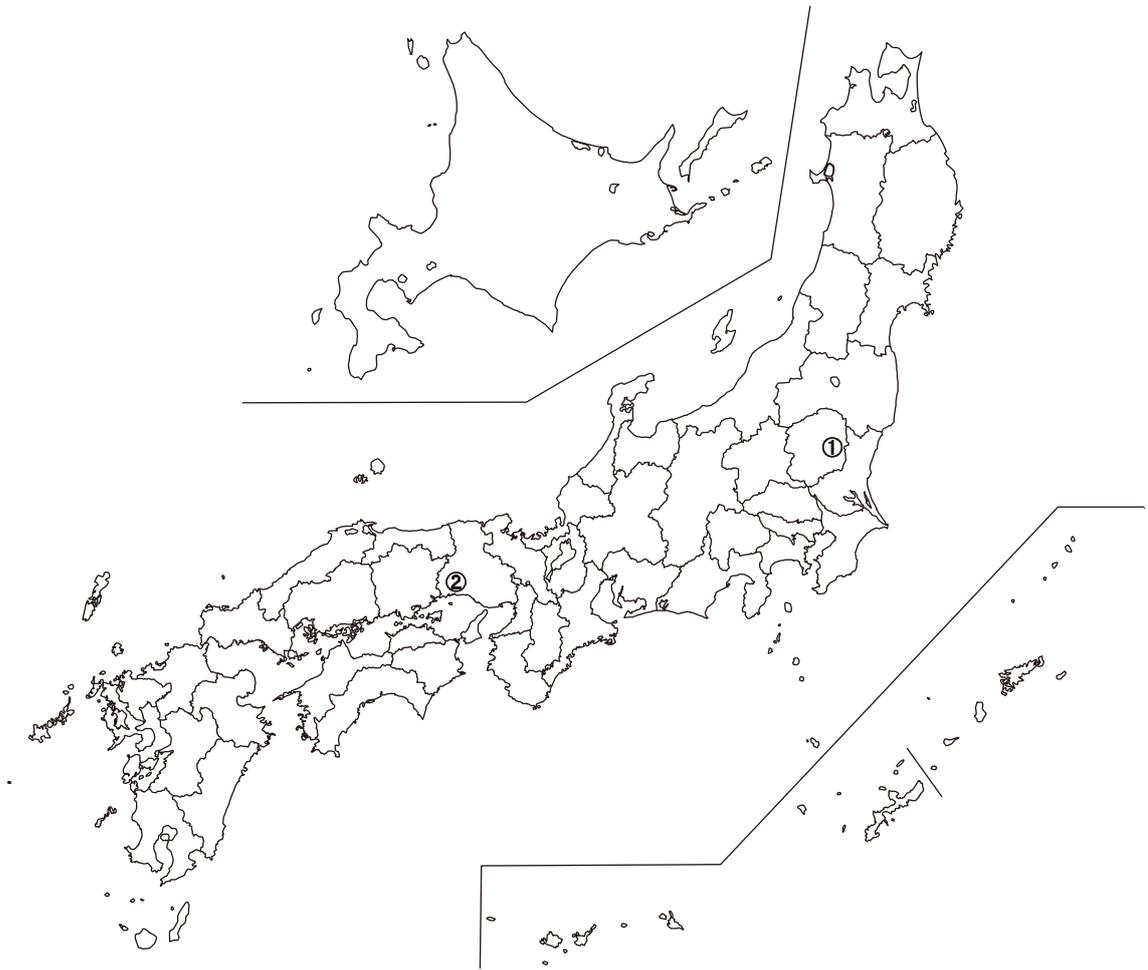
「形容名詞述語」と「名詞述語」の違いが大きい場合は、両者を別の見出しとする。

用例出典・参考文献

用例出典には、解説文中で引用した用例の出典を略称とともにあげる。解説文中では出典は略称で示す。

参考文献には、記述の際に参考にした文献をあげる。地域概説に掲載する方言区画図は、今回新たに作図したものであるが、本文中に特定の資料名を記載していない場合も、参考文献にあげる先行資料を総合的に参照して作図したものである。

要地方言位置図



- ①栃木県さくら市方言
- ②兵庫県相生市方言